

# 令和6年度 学校運営連絡協議会実施報告書

## 1 組織

- (1) 都立府中西高等学校 学校運営連絡協議会
- (2) 事務局の構成 事務局長＝総務主任、総務部員3名 計4名
- (3) 内部委員の構成  
校長、副校長、経営企画室長、分掌主任（教務、生活指導、進路指導、総務、多文化共生推進）、学年主任3名 計11名
- (4) 協議委員の構成  
地域教育委員会1名、地域有識者（自治会役員等）2名、学識経験者、PTA副会長、同窓会長、近隣中学校長、青少対地区代表、消防署管轄出張所長 計9名

## 2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会の開催日時、内容、その他
  - 第1回 令和6年6月26日 午後4時（内部委員8名、協議委員6名）  
議事（報告事項）①協議委員及び評価委員の選出・委嘱等②前年度学校経営報告及び今年度学校経営計画③本校の現状と課題等説明 ほか意見交換
  - 第2回 令和6年10月28日 午後4時（内部委員8名、協議委員4名）  
議事（報告事項）①今年度の教育活動に関する報告②学校評価の実施内容提案 ほか
  - 第3回 令和7年2月7日 午後4時（内部委員8名、協議委員5名）  
議事（報告事項）①今年度の教育活動に関する報告②学校評価の実施結果及び分析結果の報告 意見交換 ほか
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
  - 第1回 令和6年10月28日 午後3時45分（内部委員3名、協議委員1名）  
議事（報告事項）①学校評価の基本方針の確認②昨年度の学校評価結果の分析・考察③今年度の実施に向けた評価の観点及び項目、内容の検討 意見交換 ほか
  - 第2回 令和7年2月7日 午後3時45分（内部委員3名、協議委員1名）  
議事（報告事項）①アンケート集計の結果報告、分析報告②考察及び課題の整理、次年度に向けた改善提案 意見交換ほか

## 3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
  - ①授業、教育課程の充実 ②生活指導の充実 ③進路指導の充実
  - ④特別活動等の充実 ⑤校生活全般の充実 ⑥学校への理解
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
  - ①実施時期 令和6年11月下旬から令和6年12月下旬までの約1か月間
  - ②実施方法 オンラインツールの活用（Microsoft Forms®）
  - ③規模及び回収率

属性	対象者数（人）	回答数（人）	回答率（%）
生徒	922	605	65.6
保護者	922	207	22.4
地域・住民	100	15	15
教職員	53	39	73

- (3) 主な評価項目  
学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、学校教育全般、ライフ・ワーク・バランスの観点から設問を設定し、自由意見記述の欄も設けた。
- (4) 評価結果の概要（考察）
  - ①学習指導  
学習面においては、家庭学習が定着していないことが改めて示されている。さらに、保

護者、生徒がそれを自覚していながら定着しないというのも問題である。保護者の肯定的回答が少ないのは、生徒の実態から希望進路の実現ができないのではないかと、という危機感からだと考えられる。進路希望の実現、特に大学進学を目指す生徒にとって、学力向上のためには授業や補習のみでは不十分であり、家庭学習が不可欠である。そのためにも、家庭学習定着への取り組みが求められる。

#### ②生活指導

生徒指導に関しては、適切に行われていると答えている意見が多いものの、自由意見では生徒や保護者から本校に対する疑問が表れた結果となっている。指導方針に対し生徒・保護者間に立場や捉え方に違いがあるのは当然としても、共通理解を得るために継続的に取り組みを進める必要がある。また、地域の方々からは交通マナー等の安全面で強く改善を求められており、今後も継続した指導が必要である。

#### ③進路指導

進路指導に関しては肯定的回答が多い。本校生徒の進路希望は多岐にわたる。生徒自身が主体的に自己の進路を考え、決定する能力を身に付けさせたい。

#### ④特別活動

生徒の自主性が尊重される特別活動等の項目については、ホームルーム活動及び学校行事、部活動が生徒の成長の糧となり、本校の教育の特色となるよう、今後もその在り方を検討・改善し振興発展に努めていきたい。

#### ⑤その他

学校は情報発信を日常的に行うとともに、授業や生活指導・進路指導においてより一層工夫が必要である。しかし、「学校から生徒・保護者への連絡やコミュニケーションは十分に行われている」の項目において、保護者からの肯定意見が約80%であるが、保護者や地域の方が求めている情報を今後も適切に提供していく必要がある。

#### (5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）

全体的に生徒・保護者・教員三者とも、本校の教育方針や教育活動等が概ね理解されているのではないかと考えられる。「生徒は学校生活に満足している」の項目において、肯定的回答を今年も維持できたことは、評価されている証である。今後、さらに生徒が自主的・主体的に行動でき学習できる場を、学校は保障しなければならない。生徒が受動ではなく自ら創り上げる(=能動)学校にしていく必要がある。

#### 4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

##### (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

アンケート結果から、改善に向けた課題を共有することに繋がっている。

##### (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

保護者に対して、学校教育活動の理解促進を継続して行う必要がある。

#### 5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

##### (1) 学校運営

生徒及び保護者に対して、学校の教育活動や教育方針の理解促進を図る。すべての教職員が課題を共有。解決提案を検討し、改善を図る。

##### (2) 学習指導

家庭学習習慣の改善。ICTを活用した授業の推進など、新たな授業形態に対応できるよう研修機会を設ける。

##### (3) 特別活動

実施方法や実施形態は、既成概念にとらわれず創意工夫する。部活動の充実を図る。

##### (4) 生活指導

丁寧な指導と生徒の内面にはたらきかける指導を継続する。教職員の温度差を解消する。

##### (5) 進路指導

入学時から計画的な指導を実施。きめ細やかな指導体制の確立。進路情報の整理、活用。

##### (6) 健康・安全

①安全教育三要素（防災、生活、交通）を計画的に推進する。②生命を尊重した教育、人権を尊重した教育を行う。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 9人（外部）

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
		3				

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】職員会議 参加なし 企画調整会議 参加なし

8 その他

保護者の回答が昨年より半減しているのが大きな問題である。回答者の大半に肯定意見が多いものの一割の「分からない」も含め、多くの保護者の意見を聞くためにも家庭との連携を深めていかなければならない。今年度は、Microsoft formsへログインパスワード忘れが多かったことから、生徒の回答を無回答での回答を可能とした。その結果、無回答者の特定ができず回収率低下を招いた。対象者からの回答を促し回収率の向上をする必要がある。

協議委員の構成については、今年度から多文化共生推進部という新分掌を立ち上げ、在京外国人生徒を対象にきめ細かい指導を実践した。この分野での有識者を加え、協議内容を充実させていくことができた。

以上